

令和元年度 自己点検・評価

学校法人 リリー文化学園

リリーこども&スポーツ専門学校

【令和元年度 自己点検・評価について】

リリーこども&スポーツ専門学校は、昭和58年にリリー保育福祉専門学校が開校したことに遡ります。保育士・幼稚園教諭・介護福祉士・健康運動実践指導者の養成校として、専門的な知識と技術を身につけた多くの卒業生が県内外で活躍しています。

本校は、水戸市内で複合的な教育系機関を運営するリリーアカデミーグループの中核として、内在する小学校・幼稚園・保育園・スポーツクラブなどと連携しています。そこで展開される授業や現場実習、教職員の交流などを通し、学生にとって現場感のある実践的な学びを提供することを重要視しています。

少子高齢社会がますます進み、新たな保育・教育・福祉・健康ニーズへと多様化する中で、それらに即時に対応でき、対象者の幸せを支援できる人材育成が急務となっています。本校は、学生一人ひとりの学びの意欲を高めるため、学園の基本姿勢である「いつもあたたかく、いつもあたらしく」を胸に、学生支援に邁進する所存です。

ここで、令和元年度における学校自己評価について、学校関係者評価委員会の承認のもと、課題と改善策を確認しているものをご報告いたします。

令和2年5月22日
学校法人 リリー文化学園
リリーこども&スポーツ専門学校
校長・学校評価委員会委員長 菅谷 守

対象期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

評価担当委員

校長(学園本部事務局長兼任) 菅谷守
副校長・学生部長 鈴木 徹
学生部長代理・こども未来学科主任 市村 美紀
介護ふくし学科主任 大圖 幹郎
健康スポーツ学科副主任 郡司 正之
教務部代表

実施方法

1. 校内の学校評価委員会において評価を実施しています。
2. 評価については、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいています。
3. 評価は年に1回実施します。
4. 評価結果については、現状と課題、そして改善策について取りまとめ、本校ホームページにて公開します。

自己評価項目

1. 教育理念・目的・人材育成像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の受入れ募集
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献

評価基準

4段階評価

[適切—4 / 概ね適切—3 / やや不適切—2 / 不適切—1]

I. 学校の教育目標

「夢と志を持って 新しい価値を創造する人材の育成」

1. 常識と教養のある人

- 正しい考えを持ち、自らの力で課題を解決できる人
- 感性豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、対象者(児)との信頼関係を築くことのできる人

2. 専門的な知識と技術をもった人

- 対象者(児)の生命や人権を尊重し、自立支援の観点から教育・保育・介護・健康指導のできる人
- 対象者(児)の状況に応じた教育・保育・介護・健康指導を計画、実施し結果を評価・反省できる人

3. 研鑽と創造のできる人

- 自己の資質を高めるための自己研鑽に努める人
- 対象者(児)の期待値を超えた新しい価値を常に創造できる人

II. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 学園のカレッジ(専門学校)における教育理念として、次のテーマを掲げた。

「MISSION(使命、存在意義)」カレッジ

- ◎ 時代に先駆けて価値を創造し(独創) 社会に役立つ(自立)
心豊かな(感性) 人の育成

2. 近年、学生のニーズが多様化している。学生の立場に立ち、より丁寧な指導を心掛けるよう本校教職員の基本的な態度として、次の3点を掲げた。

- 自己都合ではなく学生のための指導
- 全ての学生に対する公平公正な指導
- 学生を成長させる創造的で一歩踏み込んだ指導

Ⅲ. 評価項目の達成及び取り組み状況

1. 教育理念・目的・人材育成像

評価の観点		評価[適切-4/概ね適切-3/ やや不適切-2/不適切-1]
・理念・目的・育成人材像は定められているか		4
・学校における職業教育の特色は何か		4
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか		4
課題	・学園の教育理念また運営方針に則り、学校全体として運営を推し進めることとしているが、教職員一人ひとりがそれを理解し、協働のもとに進めているかどうかを点検する機能が必要ではないか ・学校の考え方を学生も理解し、行動に移せるかどうかを検討する	
今後の改善方法	・学園のポリシー、学校の教育方針について、PDCA サイクルを活用しながら、各事業の評価と改善を継続させる ・教育の在り方を定期的に点検し、次の段階に具現化する導線を引く ・学校の考え方を学生も理解し、行動に移せるかどうかを検討する	
特記事項	・学科を一つの単位として、その学科で学ぶ姿、また卒業後の姿をイメージできるように、そのあるべき将来像を所属教職員が模索することが求められる	

2. 学校運営

評価の観点		評価[適切-4/概ね適切-3/ やや不適切-2/不適切-1]
・目的等に沿った運営方針が策定されているか		4
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか		4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確にされているか		4
・人事、給与に関する制度は整備されているか		4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか		4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか		3
課題	・教育活動に関する情報公開を強化する必要ではないか ・教職員と学生との授業上のミスマッチを軽減させるため、授業評価を積極的に推進する必要性があるのではないか	
今後の改善方法	・教育に関する改善チームを設置し、今後の在り方を早期に検討する	
特記事項	・教務事務の負担軽減を目指し、新たな学籍・成績情報システムを採用した ・教職員用パソコンの入れ替えを実施し、作業効率のアップを図っている	

3. 教育活動

評価の観点		評価[適切-4/概ね適切-3/ やや不適切-2/不適切-1]
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか		4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		4
・関連分野の企業・関係施設等・業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか		2.5

・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	2
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・資格試験の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	3
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
課題	・学生向学心が向上するような授業展開がなされているか ・使用教材の内容は適切なものか ・現場に即した、実践力が向上する授業内容が展開されているか
今後の改善方法	・教務力(教師力)向上のため、学生指導研究会の在り方を検討するとともに、通年の自己の学生指導に関わる評価シートを取りまとめる ・教科書の点検と授業進捗の確認のため、授業担当講師との協議の場を定期的に設ける
特記事項	・学生に関わる者としての教育の基本的な態度を検討し、常に教職員の目のつくところに掲出し、意識を持って取り組んでいる

4. 学修成果

評価の観点	評価[適切-4/概ね適切-3/やや不適切-2/不適切-1]
・就職率の向上が図られている	3
・資格取得率の向上が図られているか	3
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.5
課題	・学生のニーズ、また業界の最新の動向に即した就職指導を展開しているか ・有効求人倍率が低い分野について、学校の多方面にわたるネットワークを通じて新たな事業所を探索する必要があるのではないか ・民間資格の選択の再検討と取得時にその資格の有用性を分かりやすく伝えることが必要ではないか
今後の改善方法	・業界との連携をより強めるため、校内で企業ガイダンスを開催する ・附属園との連携について、就職という連続性を再構築していく ・資格取得後に意図的に失効させる卒業生が少なくないことから、資格制度の在り方そのものを検討していく
特記事項	・健康スポーツ分野で企業の採用担当者を招いた企業ガイダンスを開催した ・資格については、資格発行元にも情報を共有し、今後の改善を図っている

5. 学生支援

評価の観点	評価[適切-4/概ね適切-3/やや不適切-2/不適切-1]
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	3
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2
・学生の生活環境への支援は行われているか	3

	・保護者と適切に連携しているか	4
	・卒業生への支援体制はあるか	3
課題	・経済的な課題、生活上での課題を抱える学生が増える中で、上級学校としていかに支援を進めていくかを検討することが急務となっている ・学生の相談体制と健康管理を強化するため、活動の在り方を見直してはどうか ・学生の動きをキャッチし、すべての教職員が保護者との連携をもって対応できているか	
今後の改善方法	・全職員がワンチームとなり、学生の相談体制を強化する ・本部事務局とも連携し、学生が経済的な面で不安を軽減できるような相談体制を強化する ・卒業生会(しらうめ会)との協調をもって、卒業後のリカレント教育を推進するとともに、卒業生会の支援により在籍する学生の所属意識を高める	
特記事項	・学生また保護者に対する支援体制を明確にし、入学時・年に2回の保護者会・卒業学年次の就職ガイダンスで共有している	

6. 教育環境

	評価の観点	評価[適切-4/概ね適切-3/やや不適切-2/不適切-1]
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2
	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場について十分な教育体制を整備しているか	4
	・防災に対する体制は整備しているか	3
課題	・全体的に施設また備品が老朽化していることから、今日の学びに合致した施設・設備の改善が求められる	
今後の改善方法	・施設改善の優先順位に基づき、間髪入れずに進めていく ・東日本大震災後の多くの自然災害の教訓を生かし、防災マニュアルの見直しと再構築を進める	
特記事項	・演習授業の教材を優先して備品の改善を進めていること、今後はICTに力点を置き、時代のニーズに合った教育環境を整備する	

7. 学生の受入れ募集

	評価の観点	評価[適切-4/概ね適切-3/やや不適切-2/不適切-1]
	・学生募集活動は適正に行われているか	4
	・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4
	・学生納付金は妥当なものになっているか	4
課題	・専門学校と大学(短大)との比較、同分野他校との比較を十分に伝えることができているか ・学生募集の重要性を全教職員が理解できているか	
今後の改善方法	・各学科の魅力を分かりやすくまた一貫した内容を伝えられるよう、ガイダンスにおける説明内容の統一と資料の点検、作成を進める	
特記事項	・定期的に広報ミーティングを開催し、第三者の助言を仰いでいる	

8. 財務

評価の観点		評価[適切-4/概ね適切-3/ やや不適切-2/不適切-1]
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか		4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか		4
・会計監査が適正に行われているか		4
・財務情報公開の体制整備はできているか		4
課題	・18歳人口の減少に伴い、将来を見据えた財務運営を推進する必要性がある	
今後の改善方法	・時代のニーズに合致した養成分野の検討、学校収入の安定化につながる中長期的な計画を策定する	
特記事項	・教務組織との連携	

9. 法令等の遵守

評価の観点		評価[適切-4/概ね適切-3/ やや不適切-2/不適切-1]
・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか		4
・個人情報に関しその保護のための対策が執られているか		4
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか		2.5
・自己評価を公表しているか		—
課題	・自己評価がスムーズに行われるよう、プログラム化を検討する必要がある	
今後の改善方法	・法令遵守と個人情報保護について、定期的に点検をする	
特記事項	・コンプライアンス事項に関することとして、教職員すべてにおいて確認を実施している	

10. 社会貢献・地域貢献

評価の観点		評価[適切-4/概ね適切-3/ やや不適切-2/不適切-1]
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		4
・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか		4
課題	・自身の時間を優先させる学生が増えたことにより、ボランティア活動に参加する学生が減少している	
今後の改善方法	・学生が意欲的に、一方で気軽に参加できるボランティアの斡旋の方法を検討する	
特記事項	・本年に限っては、本県開催の全国障害者スポーツ大会への学生ボランティア参加の機会があった	

以上